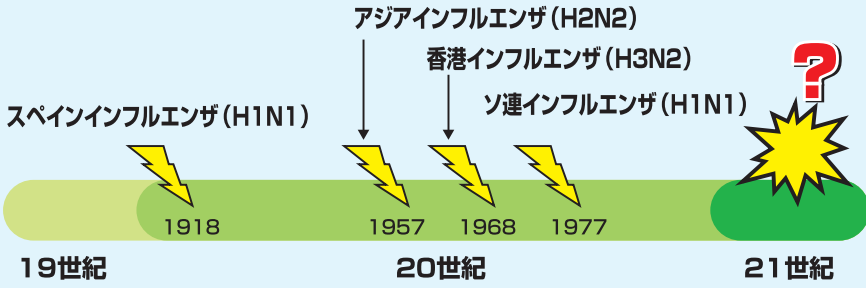


新型インフルエンザが大流行すると…

新型インフルエンザが大流行すると、多くの人が感染し、重症者や死亡者の増加が見込まれるばかりでなく、わたしたちの生活や社会機能の維持に必要な物資や人材の確保が困難になるなど、様々な問題が生じるものと考えられています。

過去の新型インフルエンザの流行状況



■新型インフルエンザによる県内の健康被害の状況(試算)

- 感染者 県民の約25% (4人に1人)
- 外来受診患者数 27万人~38万人
- 入院患者数 6,500人~3万人
- 死亡者数 1,600人~9,400人

これらの中でも、スペインインフルエンザの大流行は被害の大きさをわたっています。当時の世界人口の25%に相当する患者が発生し、約4千万人が死亡したと推定されています。また、日本においても、約2千3百万人の患者と約38万人もの死者が出たと報告されており、当時の記録をみると、外来・入院患者や死亡者が増えたことによる医療機関などの混乱、学校の長期休校のほか、住民の生活にも多くの問題が起きたことがわかります。

スペインインフルエンザの第1回目大流行は1918年3月

月米国とヨーロッパが始まり、1年の間に3回の流行があったことがわかっています。特に、1918年の秋からフランスや米国などで始まった2回目の流行では、1回目の10倍の致死率となり、しかも15~35歳の健康な若者に犠牲者が多いなど、過去にも、またそれ以降にも例のない現象が確認されています。

新型インフルエンザの流行がくり返される間に、人の側にも免疫ができるため、やがて通常のインフルエンザになります。現在、流行しているA/香港型(H3N2)、A/ソ連型(H1N1)は、過去の新型インフルエンザウイルスの“子孫”です。

栃木県では、新型インフルエンザの発生に備え、栃木県新型インフルエンザ対策行動計画を平成17年度に定めましたが、その中で、新型インフルエンザの流行による県内の健康被害の状況を次のとおり試算しています。なお、この試算は過去の新型インフルエンザの流行状況を参考にしたもの。今後発生するかもしれない新型インフルエンザが、どの程度の感染力や病原性を持つかは不明であり、これ以上の被害が出る可能性もありますが、より少ない被害にとどまる可能性もあります。

新型インフルエンザはまだ発生していません。そのため、その症状やウイルスがどのように感染するか(感染経路)については、今の時点ではわかりませんが、ここでは、通常のインフルエンザの症状、感染経路が参考になるものと思われ、それについて説明します。

新型インフルエンザの症状、ウイルスの感染経路について

新型インフルエンザの症状や感染経路についてはまだわかりません。

通常のインフルエンザの場合、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛などの全身症状が強く、ときには肺炎などを起こして重症化することもあります。また、ウイルスのおもな感染経路は、飛沫感染と接触感染が考えられています。

新型インフルエンザはまだ発生していません。そのため、その症状やウイルスがどのように感染するか(感染経路)については、今の時点ではわかりませんが、ここでは、通常のインフルエンザの症状、感染経路が参考になるものと思われ、それについて説明します。

《感染経路》
通常のインフルエンザのおもな感染経路としては、飛沫感染

■新型インフルエンザと通常のインフルエンザとの違い

項目	新型インフルエンザ	通常のインフルエンザ
発病	急激	急激
症状(典型例)	不明(発生しなければわかりませんが、免疫がないこともあり、通常のインフルエンザ以上に重症化する可能性が高いと考えられています。)	38℃以上の発熱、せきやくしゃみなどの呼吸器症状、頭痛、関節痛、全身倦怠感等
潜伏期間	不明(発生しなければわかりませんが、現時点では、通常のインフルエンザと同様と想定しています。)	2~5日
人への感染性	不明(発生しなければわかりませんが、免疫がないこともあり、多くの人が感染するものと考えられています。)	あり(かぜより強い)
発生状況	大流行のおそれ	流行性
致死率※	不明(発生後に確定) スペインインフルエンザ 約2% アジアインフルエンザ 約0.5%	0.1%以下

※致死率：一定期間における当該疾病による死亡者数/一定期間における当該疾病の罹患患者数

や接触感染が考えられています。飛沫感染とは、ウイルスに感染した人のせきやくしゃみ、会話などにより、ウイルスを含んだ水滴(飛沫)が飛び散り、これを健康な人が鼻や口から吸い込み、粘膜に付くことにより感染することになります。

また、接触感染とは、皮膚と粘膜などの直接的な接触や、ティッシュ、ドアノブなどを介する間接的な接触によって感染することをいいます。例えば、感染した人の鼻水などが付いた手で、ティッシュ、ドアノブ、スイッチなどを触れた後に、その部分を健康な人が触れ、その手で自分の鼻や口などを触ることによってウイルスが感染する場合がございます。